

第2回地球さんご賞しずおか
作文コンクール
入選作品集



小学校低学年の部

最優秀賞

「ミダック未来賞」受賞

地球さんへ、人間さんへ

絵 静岡県立富士宮東高等学校2年
挿 鮎川 侑利音

富士宮市立黒田小学校3年

内田 絆太

入選

地球さんへ

絵 静岡県立清水南高等学校1年
挿 勝間田 彩乃

藤枝市立岡部小学校3年

中西 海斗

優秀賞

地球さんご賞本部「奨励賞」受賞

水と虫にもありがとう

絵 常葉大学造形学部3年
挿 杉山 実乃梨

菊川市立堀之内小学校1年

新井 夢菜

最優秀賞

地球さんご賞本部「奨励賞」受賞

人間がぜつめつきぐしゅにならないように

絵 静岡県立清水南高等学校1年
挿 榎本 此花

静岡サレジオ小学校4年

岡崎 右京

入選

しずまえマイバッグ

絵 常葉大学造形学部2年
挿 市川 日菜

静岡サレジオ小学校4年

金 唯河

優秀賞

大好きな海を守るために

絵 静岡県立富士宮東高等学校2年
挿 飯野 葉月

焼津市立豊田小学校5年

平岩 心華

入選

富士山と神田川

絵 静岡県立清水南高等学校1年
挿 望月 森羅

静岡サレジオ小学校4年

勝亦 翔真

小学校高学年の部

優秀賞

地球さんご賞本部「選考委員会特別賞」受賞

強い命、弱い命

絵 静岡デザイン専門学校1年
挿 井上 結月

静岡サレジオ小学校5年

森谷 陶人

入選

ごみを減らしてきれいな海を守りたい

絵 静岡デザイン専門学校1年
挿 村越 くるしう

静岡市立清水興津小学校6年

飯田 隼士

最優秀賞

「ミダック未来賞」受賞

清流に咲く梅花藻

絵 静岡県立清水南高等学校3年
挿 平松 奈々子

富士市立吉原第三中学校1年

井出 琉那

入選

地球さんのおそうしき

絵 静岡県立富士宮東高等学校2年
挿 小林 葵

富士宮市立富士宮第一中学校3年

島田 結愛

優秀賞

山と川に囲まれて

絵 常葉大学造形学部2年
挿 石井 真由美

富士市立富士川第一中学校2年

蓑 旺佑

入選

地球温暖化対策について私ができること

絵 常葉大学造形学部2年
挿 鈴木 花帆

常葉大学附属菊川中学校1年

中村 健伸

優秀賞

一歩踏み出す

絵 静岡県立清水南高等学校1年
挿 渡邉 美結

富士市立吉原第三中学校3年

久保 二千羽

入選

「今の日本」を良くするために

絵 静岡県立富士宮東高等学校2年
挿 鈴木 唯愛

静岡市立清水飯田中学校3年

吉田 帆花

中学生の部

優秀賞

地球の危機

絵 常葉大学造形学部2年
挿 望月 葵生

静岡雙葉中学校3年
松 寄 香乃

入 選

六年先の私へ

絵 静岡デザイン専門学校1年
挿 黒田 菜月

浜松市立高台中学校1年
清 水 鈴華

優秀賞

共存

絵 静岡県立清水南高等学校1年
挿 内山 結衣

静岡市立函内小中学校9年
竹 澤 璃月

入 選

水を当たり前で平等なものに

絵 静岡県立清水南高等学校1年
挿 迫 咲良

富士市立吉原第三中学校2年
久 保 田 咲穂

優秀賞

大切なものを守るために

絵 静岡デザイン専門学校1年
挿 貝嶋 愛姫

静岡市立函内小中学校8年
中 山 明里

入 選

悪魔のチケット

絵 静岡県立清水南高等学校1年
挿 堀尾 優嬉乃

富士市立吉原第三中学校3年
廣 瀬 萌果

優秀賞

岳南地域の財産

絵 静岡デザイン専門学校1年
挿 石原 佐季

富士市立吉原第三中学校3年
加 藤 光貴

入 選

見守る地球

絵 静岡県立富士宮東高等学校2年
挿 小林 茶実

静岡市立清水第六中学校2年
高 田 嘉莉奈

入 選

地球さんご賞本部「奨励賞」受賞
持つべきもの

絵 静岡県立富士宮東高等学校2年
挿 古川 蒼唯

富士市立吉原第三中学校3年
山 下 瑚夏

入 選

環境と私たち

絵 常葉大学造形学部3年
挿 清水 菜桜

常葉大学附属菊川中学校1年
篠 崎 こう愛

入 選

本当に地球は青いのか

絵 静岡県立富士宮東高等学校2年
挿 野田 明路

富士市立吉原第三中学校3年
山 本 絆奈

入 選

何故私がこの作文を書くに至ったのか

絵 静岡デザイン専門学校1年
挿 山地 志歩

静岡市立清水第六中学校3年
鷺 坂 実和

入 選

住まわせてもらう責任

絵 静岡県立清水南高等学校1年
挿 鈴木 梨咲

静岡市立清水飯田中学校3年
山 梨 晃

入 選

地球さんご賞本部「奨励賞」受賞
守るべきもの

絵 静岡県立清水南高等学校1年
挿 小玉 紗久野

御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校3年
坂 本 唯愛

水と虫にもありがとう

新井 夢菜

ことしの五月、はじめてたうえをしました。
水はつめたいし、あしははまっとうでない。
なんどもころびそうになって、
てもあしもどろだらけになりました。

田んぼにはアメンボやオタマジャクシなど、
たくさんの虫がいました。虫はきらいだし、
どろだらけになるし、わたしはなきそうになりました。

でも、この虫たちはいねをたべてしまう、
わるい虫をたいじしてくれるし、
このつめたい水は、いねをそだててくれます。
水と虫がなくては、お米はそだたなくなってしまいます。

わたしはごはんをたべるとき、
ごはんをつくってくれた人、
お米をつくってくれた人、
どうぶつやさかなにかんしゃをこめて
「いただきます」といっているけれど、
これからは水や虫にもかんしゃを
したいとおもいました。



しずまえマイバッグ

金 唯河

今、地球では様々なかんきょう問題が起きています。その中の一つが気象災害です。私が住んでいる静岡も今年の夏はもう暑や大雨が続いたり、台風のえいきょうを強く受けました。気象災害の原因として、地球温だん化が指てきされており、地球温だん化に深く関わっているのがプラスチック問題です。

プラスチックは化石燃料である原油を原料としてつくられます。その過程で、二酸化炭素や有害物質といった温室効果ガスが排出されます。また、つくったプラスチックを処分する方法として、日本ではしょくやくや埋めたてをすることが多く、リサイクルリつが低いいため、プラスチックゴミが増え続けています。日本財団ジャーナルによると、世界では毎年約八百万トンものプラスチックゴミが捨てられており、日本はアメリカの次に多いプラスチックゴミ排出国です。製造と処分の過程で温室効果ガスが大量に排出される。これがプラスチックの問題ということなのです。

なぜ、プラスチックは大量につくられているのでしょうか。それは、軽くて、こわれにくく、いろいろな形に加工できて便利だからです。特に、肉や魚などの生鮮食料品に使うプラスチックの包そう容器は、あたりまえのように日常生活の中にあふれています。しかし、だからといってプラスチックを大量に使用する便利な生活を続けていると、気象災害がさらに悪化し、もっと住みにくい静岡になってしまいます。

プラスチックを使わない製品や、紙ストローなどの代替品を取り入れたりする企業が多くなり、それらの企業のホームページでは持続可能な社会のために努力をしていることが書かれています。しかし、私たち一人一人が、日常生活の中からプラスチックをへらす生活スタイルをつくりあげる必要があると私は考えます。

そこで私は、生の魚や肉も運ぶことができる保冷機能のそなわった「しずまえマイバッグ」を提案します。バッグの周囲には保冷ざいが入れてあり、中にはお皿があって、店の人に魚や肉などを自分好みのサイズと量に切ってもらい中に入れて運びます。しずまえマイバッグを使用して生鮮食料品をこう入した場合は、ポイントをかく得できる仕組みをつくと良いでしょう。食品の包そうに使い捨てのプラスチック容器を使わなければ、その分食品のねだんも下がるし、

スーパー等のお店のすがたも変わっていくはずです。市場のように、新鮮な食品が客の前で切り売りされたりしていると、とてもおいしそうに見えます。これこそを「しずまえ市場」と呼んではどうでしょうか。いつまでもおいしい食物がいただける、地球にやさしい静岡でありますように。



山と川に囲まれて

蓑 旺佑

みなさんは、野田山と富士川をご存じだろうか。

富士川の西側には、野田山がそびえている。富士山や駿河湾が一望できる標高四七〇メートルの山で、頂上付近にはキャンプ場が整備されている。

一方、富士川は一級水系の河川であり、日本三大急流の一つに数えられている川である。かつては、日本の動脈といわれていたように、東海道の通り道であったことから、富士川渡船や舟運の拠点として栄えた。大雨が降った時に、富士川橋から川を見下ろすと、息をのむくらいの茶色い濁流をよく目にする。

このような山と川に囲まれた土地で、僕は暮らしている。しかし、近年の猛暑や大雨が示しているように環境が変化してきていることを実感している。

僕が幼い頃は、自宅の駐車場付近には沢蟹がいた。自宅の裏山には、水源がありその周辺にも、多くの沢蟹が生息し水遊びをした記憶が残っている。しかし、その土や草で覆われていた水源の水路の土手は、いつの間にかコンクリートで覆われ、沢蟹はほとんど見られなくなった。生物が生きていける環境が、段々と少なくなってきたのである。環境の保全と、水害や土砂災害防止のコンクリートの設置、どちらを優先させるべきか考えさせられる。さらに、以前は夜になると山からフクロウの鳴き声をよく耳にしていたが、

現在はあまり耳にしなくなった。僕は、こうした身近な生物のちょっとした変化に気付く機会が多くなったと実感している。

また、僕の祖父母は裏山で先祖の代からみかんを生産している。みかんの病害を予防するために年間スケジュールを組んで薬剤を散布している。しかし、予想もできない突然の大雨により予防を中止せざるを得ない日がある。みかんの葉が濡れていると予防ができないのである。私たちの食べ物生産にも影響が出ている。このようなことから、環境の変化を感じている。

そして、僕が通学している中学校は、富士川の土手の横に建っているため、大雨で川が氾濫するなど想定外のことも考えると恐怖を感じる。雨が降った際、通学路にも水が勢いよく流れている箇所もある。この異常な気象も人間が作り出しているものだと考えると、複雑な気持ちになる。

誰かが自分の利益や私欲のために環境を破壊する。これはポイ捨てから大規模な森林伐採まで様々なものがある。誰かが「まあいいや」と思うたびに、生物や植物が生きていける環境が狭まり、生物が死んでしまうと思うと心が痛い。

僕は、自然豊かな環境に暮らしているからこそ、生き物や植物の変化を感じ取れるこの感覚を忘れないようにしたい。この身近に感じる環境の変化から、環境保全の意識を持ち続け、故郷を守っていきたい。



地球の危機

松 崎 香 乃

雨が急にザーッと降ってきた。傘をさしても役に立たず、びしょぬれの私は急いで家に向かった。全身を大きなタオルで拭き、濡れた制服をハンガーにかけて着がえを済ませた。テレビをつけると、住んでいる地域に真っ赤な線状降水帯が連なっている様子を観て、大声で母を呼んだ。間もなくして目の前が白くなるほどの大雨が降り出した。母は、「温暖化で気候も変わり、急な強い雨が增えるから災害のことも考えないといけないね。」と言った。

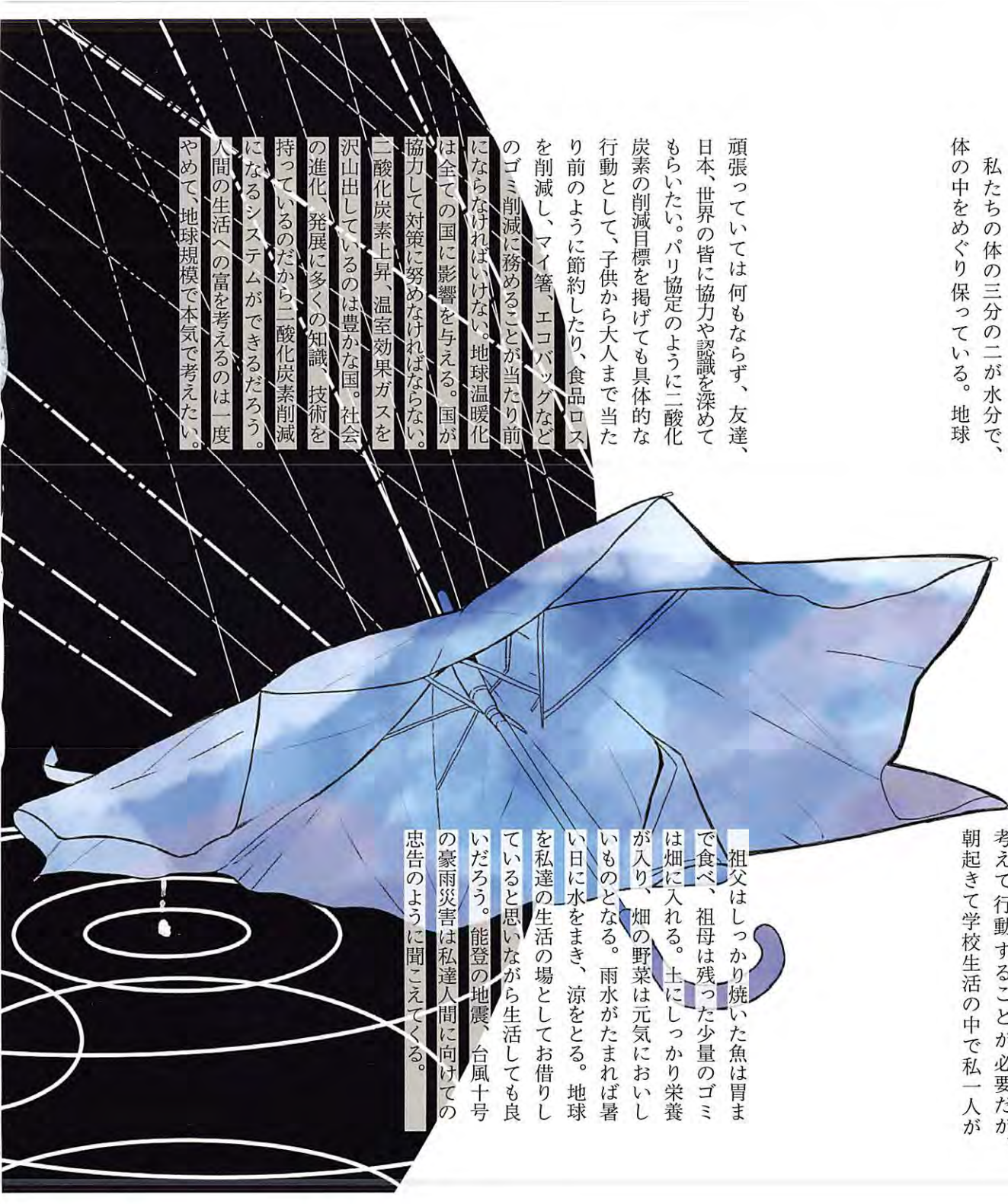
私たちの体の三分の二が水分で、体の中をめぐり保っている。地球

の表面も三分の二は水、海、川、湖からなり、そのような惑星は太陽系の中では地球だけ。水のおかげで植物も動物も人間も生きていける。しかし、四十六億年前、誕生したばかりの地球には水はなく、表面が数千度以上の高温だったため、水蒸気が発生したことや宇宙から水分を含んだ無数の小惑星が飛んできて、ぶつかった時にもたらされたと聞いた。現在水の循環を変化させ、地球規模で極端な高温や大雨、乾燥などを発生させ

地球温暖化をはやめていることを真剣に考えなくてはいけなくなった。気温が上がって空気中に含まれる水蒸気の量が増え、海水温が上昇した海水は次々雨雲を発生させ、特定の地域では激しい雨が降る。近年の豪雨も海水温の上昇が原因とされている。温暖化が進むと、大雨の回数も増えていく。赤道近くの暖かい海で生まれた低気圧は太陽の光で温められ、大量の水蒸気を含んで上昇し発達させ、スーパー台風となる。人為的災害を起こさないためにも温暖化を考えて行動することが必要だが、朝起きて学校生活の中で私一人が

頑張っているは何もならず、友達、日本、世界の皆に協力や認識を深めてもらいたい。パリ協定のように二酸化炭素の削減目標を掲げても具体的な行動として、子供から大人まで当たり前のように節約したり、食品ロスを削減し、マイ箸、エコバックなどのゴミ削減に務めることが当たり前にならないといけない。地球温暖化は全ての国に影響を与える。国が協力して対策に努めなければならない。二酸化炭素上昇、温室効果ガスを沢山出しているのは豊かな国。社会の進化、発展に多くの知識、技術を持つているのだから二酸化炭素削減になるシステムができるだろう。人間の生活への富を考えるのは一度やめて、地球規模で本気で考えたい。

祖父はすっかり焼いた魚は胃まで食べ、祖母は残った少量のゴミは畑に入れる。土にしっかりと栄養が入り、畑の野菜は元気においしなものとなる。雨水がたまれば暑い日に水をまき、涼をとる。地球を私達の生活の場としてお借りしていると思えば生活しても良いだろう。能登の地震、台風十号の豪雨災害は私達人間に向けての忠告のように聞こえてくる。



地球温暖化対策について私ができること

中村 健伸

先日、テレビで「さんまの値段が上がっている」というニュースを観ました。そのとき母が「さんまはここ数年で高級魚になった。」と話していました。私は「さんまは高級魚」だと思っていました。でも、母の言葉を聞くと数年前はそうではなかったようです。私の中に、「なぜそんな変化があったのだろう。」という疑問が生まれました。これを解決するため、さんまについて調べてみました。

水産庁のホームページで調べてみると、二〇〇四年からの十五年間でさんまの漁獲量は約半分に、値段は約二・五倍になっていました。この状況に対して国や漁業関係者は、漁獲量や大きさの制限などを行っています。しかし、残念ながら漁獲量が増えることにはつながっていません。もっと根本的な原因に目を向ける必要があります。私はさらに調査を続けていきました。

ホームページにはさんまの漁獲量が大きく減った理由がいくつか挙げられていました。それを分析すると、どれも「地球温暖化」が関係していることに気がきました。

「地球温暖化」という言葉はとてもよく使われます。私も小学校の授業で学んだり、テレビ番組で特集されていたのを観たりしたので知っています。しかし、知っていてもどこか自分には遠い言葉のようでした。

でも、それが私たちの暮らしにも大きく影響を与えているのだと感じました。そのため、私たちも「地球温暖化」の対策を意識し、行動していくべきだと思い、身近で行われている対策を探してみました。

まず、私の住む町ではごみを捨てるときにできる限りの分別をするように定められています。しかし、私は今までごみを捨てるときに、分別の意識をあまりせずに捨てていました。ごみを分別しないと、大切な資源が焼却処分され地球温暖化につながってしまいます。これから、ごみの分別を意識して捨てるようにしていきたいです。

次は洗濯で使用する水です。私の家では洗濯をするときに風呂の水を使用しています。こうすることで節水することができ、限られた資源を大切にすることができます。

もう一つは太陽光パネルです。多くの屋根で太陽光パネルが見られるようになりましたが、私の家の屋根にもついています。太陽光パネルで発電すると、二酸化炭素を排出しないため地球温暖化対策につながります。

このように、私の周りには様々な地球温暖化対策がされていました。その中には私が意識をして取り組むことができるものもたくさんあります。これから私は地球温暖化について考え、行動していきたいと思いました。また私だけではなく、すべての人が地球温暖化について意識し、暮らしやすい地球になってほしいです。

環境と私たち

篠崎 こう愛

私は海の近くに住んでいます。ですが最近防潮堤が造られ、海が見えなくなってしまうのはとても悲しいです。せっかく自然が豊かな町に住んでいるのに景色が人工物に変わっていくことも、私にとって嫌なことです。

今回はこれから自然や動植物と共存するにはどうしたらいいかを、海の問題、山の問題に分けてそれぞれ考えました。

海の問題の一つ目は、砂がなくなってきたしまっていることです。私の町では毎年、砂浜で行う草競馬があるのですが、年々砂浜が減ってきているようです。草競馬を続けていくためにもこの問題には取り組む必要があると思います。

砂浜がなくなってきた原因はダムから海に砂が流れてこないことです。ダムのおかげで

私たちはいつでも水を利用でき、反対はできませんが、バランスを考える必要があります。

二つ目は、海のごみの問題です。砂浜にはたくさんのごみが漂流します。なので、人間が海や川にごみを捨てないようにしなければなりません。海洋ごみのせいで、動物の命が失われてしまうこともあります。

三つ目は、冒頭にも書いた防潮堤です。そのせいで海沿いの景色が一変してしまう事が不安です。地震も津波もいつくるかわかりません。しかし防潮堤で自然破壊をするよりも、住民や観光客が避難できるタワーや道路、避難場所の整備という別の方法でやってほしいと思っています。

次に山の問題についてです。人間は今まで、住む場所や道路を増やすために森林を伐採してきました。

最近目立つのは、太陽光パネルを設置するために山が削られている光景です。あんなに森を壊してしまうと、動物は住む場所がなくなりそうです。

えさが少ないというのも、生態系を壊した人間が悪い、つまり野生動物が街に来るのは人間の自業自得だと思います。

このままの状態が進んでしまえば、将来人間も生物も住めない環境になってしまいます。海を守るためにはごみの分別をしっかりして、山や海などに捨てないことが大切です。砂はできれば人工的にでも

今の技術で海に運んで欲しいと思います。防潮堤は、大人たちが将来のことも考えて進めて欲しいです。

山に関しては、自然エネルギーで何とかしようというより使う量を減らす技術と、無駄なエネルギーは使わないという意識が必要だと思います。電気やテレビがLEDに変わって、エネルギーの使用を少なくする技術がもっと進化するのではと期待しています。

ここまでたくさん問題が起きているのになぜ大人は何も変えようと思わないのかと思います。私たちの将来やこれからの子供のためにも、大人たちには今を止める意識をしてほしいです。私もできることは精一杯取り組んでいこうと思います。

